

鶴さんなら町内での褒者、本人も堅い人やで結構、併し娘が何んと云ふか一度娘に話を仕てみますと、其の晩は別れて歸つた、翌日八兵衛さんが、娘に話を仕たら、自分が惚れた男何の不服があるものかいな、二ツ返事で承知仕たので、早速私の宅へ来て話を進めてくれとの頼み、そこでお前處の兄さんに話を仕た。處がお前の兄さんは堅い人やで、雜穀八さん處とは身代が異います。釣合はぬは不縁のと因と云ひなさるが、イヤそやない色々話をすると、お前さんも兩親に早う死別れて兄親やで、本人さへ承知仕たらと云ふ事やで、私がお前さんと呼んで話を仕た。其の時お前さんは何んと云ふた、叔父さん何分宜しう御頼み申しますと云ふた事覺へて居るやろな、よもや忘れはせんやろな、そこで話が纏つて結納まで取交して、私が媒酌人で吉日を選んでさて婚禮となつた當日、日が暮れたらお前さんの姿が見えん、風呂へでも行つたんかいなア、と思ふて風呂屋へ探しに行つたが居ぬ、床屋へ行つたが居らん、そうこうする間に九時が鳴つた、十時が過ぎた。十一時十二時も周つた、一時になつても姿が見えん。とう／＼夜の明けるまで、雜穀八とお前さん處の宅の間を、私は何遍行つたり來たりしたか解らん、あの時ばかりは足が棒の様になつたで鶴さん、八兵衛さんは怒る。宅の養子は榊屋さんどうなつたんだすと極めつけられる。娘は娘で、初めての殿御に嫌はれたのやで死で仕舞と云ふし、私はあの時ほど困つた事はない。待やつたら腹を切つて申し譯をせんならん、マア／＼私が行届なんださかいにと謝罪つて、後で何とか話をつけると一時は納

めた、八兵衛はんは納まつたが、納まらんのがお糸さん、それから、ぶら／＼病ひ、他の養子をと云ふても厭と云ふ、役者はどうやと云ふと、役者は顔が青白いので厭や、淨瑠璃語りは咽が太い、二輪加師は面白い顔やし、嘶家はチャリ顔や、何れも娘の氣にいらん、或日天王寺さんへ參詣して一心寺の處まで來ると、其處に桶を擔げて通つた小便汲いが、お前さんに瓜二ツと云ふ程能う似た男や、それを見ると、お糸さんが鶴さんに能う似てると云ふたので、後をつけて行くと猪飼野の百姓で相當な宅の次男ぢや、人を以て話をすると先方も早速承知をして養子に來た。初めの間は温順しかつたが、其内に町内の參會に八兵衛はんの代理に行た。茶屋酒を覺へた、面白うなつた、お糸さんが何程奇麗でも、また色町に出てる女は何處か違ふ、繁々と通ひかけた。同じ處は面白ない。今日は北の新地、明日は堀江、鶯町と遊び廻つた、金を湯水の様に使ふので、それがために雜穀八さんはそれを苦にしてコロリと死んだ。續いて内儀さんも跡を追ふと云ふ始末、養子は兩親が死んだので、後は恐い者がないので、日夜放蕩三昧、たうどう家は家質に入れる。何から何まで人手に渡つて仕舞ふ、金が無くなつた、ぼち／＼安ものを買ふ、病氣が傳染つて、とうどう梅毒が出る、腫物は身體一面出来る、膿が流れると云ふ有様、仕方がないので、町内へ奉加帳を廻して金を集めて四國詣りをさした。途中で死んで呉れ、ばよいのに、又ノコ／＼と歸つて來た。夫婦の情で一晩寝たが、其病氣をお糸さんに傳染しておいて其儘養子は死んだ。其時葬式の費用を私が出した。死ん